

大切な人を亡くして、 生きていくということ ～グリーフケアで、つながるまちへ～

いつか誰もが経験するかもしれない、大きな悲しみ……。大切な人との死別は、心や体にさまざまな変化をもたらします。グリーフケアとは、そんな悲しみの中にある人に寄り添い、サポートをすること。

自分自身の辛い経験を経たのちに、支援活動に取り組んでいる人たち。その胸の奥にあるのは、どんな想いなのでしょう。

人と人とのつながりが、自分で自分を手当てする力を生んでいく。私たちのまちで少しずつ広がっているグリーフケアの輪について、聞いてみませんか。

2023.11.11(土) 14:00～16:00開演 13:30開場

場 所 市民活動センタープラッツ バルトホール 定 員 先着250人 費 用 無料

第1部 「なくしたものと、つながる生き方」尾角光美さん（一般社団法人リヴオン代表）



尾角光美さん

19歳の時、母を自殺で亡くす。その翌年から「あしなが育英会」で遺児のケアに関わる。2006年に自殺対策基本法が制定された後、全国の自治体や学校などでグリーフサポートについて講演を行う。

第2部 「グリーフケアで、つながるまちへ」小川有閑さん 大正大学地域構想研究所主幹研究員 神藤有子さん ふちゅうのグリーフサポート代表

主催 府中市市民活動センター プラッツ / 府中市

問合せ ☎ 042-319-9703 📠 042-319-9714 ✉ moshikomi@fuchu-platz.jp

〒183-0023 東京都府中市宮町1-100 ル・シーニユ5,6階(京王線 府中駅南口直結)

お申込みは
こちらから



府中市市民活動センター
プラッツ



第1部 「なくしたものと、つながる生き方」



尾角光美 (おかくてるみ)さん

19歳の時、母を自殺で亡くす。その翌年から「あしなが育英会」で遺児のケアに関わる。2006年に自殺対策基本法が制定された後、全国の自治体や学校などでグリーフサポートについて講演を行う。

2009年に「グリーフサポートが当たり前にある社会の実現」を目指し「リヴオン」を立ち上げる(2011年法人化)。大阪府や京都府の自殺対策推進協議会として条例の制定に関わり、また1万人以上の倍員養成に携わってきた。現在、英国バース大学「死と社会研究センター」博士候補生として、ヤングアダルト期の親の死の経済的影響について研究している。

第2部 「グリーフケアで、つながるまちへ」



小川有閑 (おがわゆうかん)さん

大正大学地域構想研究所・BSR 推進センター主幹研究員。子どものグリーフケアに取り組む「一般社団法人 The Egg Tree House」代表理事。葬送・医療・福祉関係者とつくるライフエンディング研究会を主宰するなど、さまざまなグリーフケアや自死対策に携わる。浄土宗・蓮宝寺住職。

コメント

死別と聞くと、暗いイメージが浮かんで、考えたくないという方もいらっしゃるでしょう。でも、私たちはいつか必ず見送る人になり、見送られる人になります。そうして自分自身や家族が、どうしようもない寂しさ、喪失感、心細さを感じた時、それでも安心していただけるまちって良いですよね？府中をそんな優しいまちにしていく第一歩をみんなで踏み出しましょう。



神藤有子 (しんどうゆうこ)さん

市民活動団体「ふちゅうのグリーフサポート」代表。遺族体験を経て、その後グリーフサポートを学ぶ。参加者が自身の死別経験を話す「わかちあい」の会を開催する他、死別やペットロスについての講義なども行う。訪問看護ステーションいきいき看護師。

コメント

自分の住む府中市が、大切な人を亡くしても支えのある優しいまちになる事を願って活動しています(府中市まるごとグリーフサポート計画)。大切な人を亡くして辛い気持ちを抱えたとき、お話ができるグリーフケアの場を探しているけれど「ふちゅうのグリーフサポート」は安全な場所なのか、どんな人が携わっているのか。会場でお会いし、安心していただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

11月は市民協働推進月間

府中市では平成26年10月19日に「市民協働都市」を宣言したことを踏まえ、協働を身近に感じてもらう機会として、平成27年度から11月を「市民協働推進月間」としています。

つながる、広がる、人の輪



第9回

府中市市民協働まつり

開催日時 2023.11/25 (土) - 11/26 (日) 10:00-16:00

